

# 報 会 同 窓 中 学 校 貝 片

第 5 号 2005 年 3 月

片貝中学校 ☎ 0258(84)2030

☎ 0258(84)3880

http://www.city.ojiya.niigata.jp/katachu/  
(中学校HP)

http://www.katachu.com(同窓会HP)

E-mail katachu@city.ojiya.niigata.jp

# 友 窓



## 縦の力

同窓会長

浅田 正平

大自然に生かされている人間を再確認し、人間って強くてやさしいんだなあって思った。世界中の人達が、この新潟中越地区に支援の手を差し伸べてくれ一人では生きて行けない動物であると実感しました。

いつも人の力を借りながら生活している自分に気付かず、水・電気・睡眠・食事・排泄等々当り前と思っていた事に不自由を感じた。力を合せ、励まし合い助け合いながら過ごした日々が、不謹慎ではありますが、新鮮な時間とも感じられた事もあった。経済や科学技術が発展し、人の生活が豊になり、忙しさの中で暮してはいるものの、何か空虚感のようなものを感じる現代生活の中で、自然界の中にいる人間である事を、これが思い起させたのでしよう。

「片貝の同級生は仲が良い。」  
「団結力は、ものすごい。」

他町村の方々から多々言われます。お祭り事業のせいかな？ 小学校から中学校まで皆一緒のせいかな？ とにかくまとまる。そして、各同級会が、それぞれの

カラーを持っている。これは私自体誇りであり、感謝である。しかし、町全体を考えるとどうだろうか？

横のつながりは良好でも縦のつながりは、今一物足りないものを感じないではられない。

去日二月二十日、酉戌会・一心会の当番幹事のおかげで第十四回同窓会総会・同窓祭を行いました。予定では地震の翌日の計画であり、仕切り直しの開催であるにもかかわらず、多勢の会員の皆様方から参集いただき、盛大な会となり、ありがたく感謝しました。今回は第一回卒から全級友会に案内をさせていただきました。懇親会の中で、「還暦過ぎた会でOB会でも創るか！」との貴重な声も聞かせ頂きました。そんな事を言わず還暦終つても退会しないで欲しいと言うのが、私の意見であります。この片貝中学校同窓会が、各同級会の独自色を保ちながら太い縦のつながりが深まり、結ばれば、日本一の町造りができる。と日々願っているのがあります。

今後共、同窓会活動に御理解と御協力を深くお願い申し上げます。



## 誇れる学校

片貝中学校長

渡辺 清滋

同窓会の皆様には平素より本校の教育に対して多大なご支援をいただき、感謝しております。また、この度の震災に際し、お見舞いをいただき誠にありがとうございました。

当日は合唱コンクールがあり、多くの方から鑑賞をいただいたあとの大地震でした。幸い生徒たちは無事でしたが、体育館、教室が使えず九日間の休校となりました。

震災による授業の遅れを取り戻そうと冬休みを返上して勉強に励みました。特に三年生は受験シーズンをひかえ果敢に勉強に専念しておりました。

この姿が「読売新聞、新潟日報」の記事として全県に紹介されました。正に校歌の「誠心つくして雄々しく伸びん」の精神と考えます。

お陰様で三年生の五十名が進路実現を果たしたことは嬉しい限りです。生徒の志の高さとその実現のために支援する親と教師の一致団結した姿は深い絆を感じたものです。

私はこれを片貝中の誇る歴史

のページと考えております。さらに、輝かしい伝統を誇る部活動、良き校風の一つである常翔会(生徒会)の活動、各種ボランティア活動等どれも素晴らしい伝統であります。

このすばらしさはどこから生まれてくるのでしょうか。二月片貝総合センターで「第十四回片貝中学校同窓祭」が酉戌会、一心会、同窓会役員の皆様のご尽力で盛大に開催されました。同窓会の皆様の力強い歩に敬意を表さずにはられません。

母校が有為な人材を世に送り出す「名門校」であってほしいという願いと、故郷の発展を支える「地域の学校」であってほしいという願い、そして熱く支援しようという使命感がひしひしと伝わって参りました。

今年度は「同級会名パネル」を寄贈していただきました。「父母と同じパネルの中に私の学級名(華成会)と一緒にあった。身が引き締まる。」と三年生は述べています。

このように中学生一人一人が先輩の思いを尊重し、「誇れる学校」であってこそ、すばらしい伝統は引き継がれていくものと確信しております。今年もよろしくお願いいたします。

歴代同級会名																			
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回
和好会	立志会	緑友会	伸竹会	講春会	鳳友会	同心会	若杉会	新辰巳会	伸友会	朗志会	陽光会	十三回会	白樺会	十五華会	越十六会	となかい	赤心会	千九傳会	にれ会
第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回	第40回
ついで会	にび会	ついで会	ついで会	しろがね会	酉戌会	松出会	双葉会	福寿会	みつわ会	恒友会	緑翼会	ささな会	実生会	友心会	成友会	翼進会	一心会	翔心会	鳳凰会
第41回	第42回	第43回	第44回	第45回	第46回	第47回	第48回	第49回	第50回	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回	第59回	第60回
輝友会	希進会	平成会	飛翔会	翼翔会	輝龍会	愛郷会	翠心会	恒暉会	嚙聖会	五十一会	翡翠会	翠璋会	愛星会	輝翔会	暖心会	希風会			
第61回	第62回	第63回	第64回	第65回	第66回	第67回	第68回	第69回	第70回	第71回	第72回	第73回	第74回	第75回	第76回	第77回	第78回	第79回	第80回

### 同窓祭を終えて

第十四回同窓祭実行委員長

西戌会

石上 勉

本来は、平成16年10月24日に行なうはずでしたが、よりによって前日にあのとんでもない地震が発生し、やむなく日程を変更させて頂きました。

私自身、今後どうなるだろう、同窓祭は行なえるだろうか、の不安でいっぱいでした。しかし同窓会役員やスタッフの力を借り、去る2月20日に無事終えることが出来ました。行事内容は当初なかなか決まらず悩みましたがやはり私達も何か形で残そうと決まり、第一回卒業生から第五七回卒業生までの会名を表札にすること、中学校の建造関係の歴史資料をDVDに残し同窓祭で上映することのダブルで行ないました。その後体育館に立派な姿で表札を飾ることが出来、DVDも中学校に寄贈してまいりました。また今回は西戌会と一心会が担当でしたが四ヶ月延長にも負けず頑張って頂き更に町民の皆様や小中学校の御協力を頂き本当に有難うございました。

## わが同級会

二十歳、三十三歳、  
四十二歳、六十歳を  
むかえる同級会を  
紹介します。

### 三十三歳厄祓いを前に

希進会会長

吉原 裕子

私達希進会は、片貝中学校第四十二回卒業生で、会員数七十四名の同級生です。

希進会という名前の由来は、いつまでも希望を持ち続け、夢に向かって進んでいきたい!!という想いを込めて皆で決めました。年号も昭和から平成へと新しく変わった年でもありました。あれから十七年...その名の通りそれぞれ皆が今も夢を持ち続けがんばっています。

そんな私達も、今年人生の節目の一つである、三十三歳を迎えることとなりました。一月十五日には、厄年のお祓いを終え、会員の健康と来る行事の成功を祈願しました。同級会も開催し、

何年振りかに顔を合わせる仲間もいましたが、一緒にいた頃の楽しい思い出に華を咲かせると、長い日々がたったとは思えないほど、気兼ねなく話す事ができました。

私達が中学生の頃は、部活動に一生懸命取り組み、運動部、文化部ともに、優秀な成績を収めていました。これも、一人一人の努力のたまものであり、いざという時には、団結力を発揮するということだと思えます。

この団結力を生かし、秋季大祭に向けて事務所も決まり準備を進めています。しかし、まだまだわからない事も多く、先輩の方々、町民の皆様には、お世話になることもあるかと思いますが、ご指導宜しく願っています。

片貝の町に、私たち希進会三十三歳の華麗な「華」を咲かせたいと思います。



## 四十二歳祭り本番目前に

緑翼会

大塚 博文

冒頭に、昨年十月の中越大震災に際しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

私たち緑翼会は、片貝中学校第三十二回卒業生で、会員六十七名の会です。

緑翼会の名前の由来は、三十二の三『み』と二『つ』のつく名前を考え、ゴロ合せにより決めた会です。

現在、会員の殆どが、県内に居住しており、いつでも顔を合わせる事が出来ず。又、昨年緑翼会のホームページを立ち上げ活動日程、内容等を記載し、掲示板を情報交換の場として会員の意思疎通が計られる様になりました。

去る一月十五日の、本厄祓い、塞の神行事も震災の影響で、準備が遅れ心配致しましたが、皆様方からの協力の元、無事終える事が出来たことを、感謝申し上げます。

さて、私たちは今、浅原神社秋季大祭に向け準備を致しております。お互いの至らないところを補いながら精一杯努力していきたいと思っております。

終わりに、町民の皆様方からは更に幅広くご指導いただきたくことをお願い致します。



ホームページ <http://ryokuyoku.hp.infoseek.co.jp/>  
 ケイタイ <http://ryokuyoku.hp.infoseek.co.jp/>  
 掲示板 <http://bbs.infoseek.co.jp/Board01?User=ryokuyoku>

## わが同級会

白樺会会長

市川 英雄

我々白樺会は、終戦の年昭和二十年と翌年の二十一年に生まれた仲間です。片貝中学校卒業が昭和三十六年(十四回卒業生)でした。会員数は、当時八十八名(男子四十一名女子四十七名)でした。

会員数の多い先輩達と戦後のベビーブームで誕生し我々の三倍程の大クラスの後輩達との谷間に位置し、小さく、おとなしく、目立たないクラスと評価されて来ました。でも我々の白樺会はまとまりがあり、協調性があり小さいながらも、すばらしい仲間達です。こんなクラスに、大きな影響を与えてくれたのが、小学校の四年から六年までを担当してもらった吉田先生でした。何事にも情熱をもって対処し、口から泡を飛ばして叱ってくれたり、夜遅くまで、楽器の指導をし、真冬の雪中遠足を決行して校長や父兄より、お叱りを受けたりもしたけれど、今でも楽しい思い出深い先生でした。今回の還暦記念行事にも、元気に参加される事と思います。さて、今年の九月のお祭で、

我々、白樺会最後の大会イベントである還暦記念行事を実施します。それらの成功に向けて、今月十三日(日)に事務所開き(二の町小川様宅)を行ない、本格的な活動を開始します。

会社を解雇されたり本人が、家族が入院中で、生活が苦しくて不参加の会員も多くなりますが、それでも六十名程の参加者の同意を得る事が出来、在町者一同ホツとしているところです。

諸先輩達の超大型の花火に比べられる程の花火の打ち上げは、出来そうもありませんが、残り半年出来る限りの努力をして、町民の皆様の期待に少しでも答えられる様努力するつもりです。上げる花火は小さくても、意気込みだけは、諸先輩達には、負けないつもりです。

今後、同窓会員や、町民の皆様にかと御迷惑をお掛けするかと思います。皆様の御指導や御協力を得て、無事に還暦行事を成功させたいと、願っております。

今後とも、白樺会を、よろしくお願い申し上げます。

## わが同級会

成人

翠嶂会会長

小野塚 丈晴

片貝中学校第五十三回卒業生の私たち翠嶂会は、今年成人を迎えます。

翠嶂会の名前の由来は、片貝中学校の裏山にそびえる青々とした連山のようにいつまでも肩を並べて故郷を見つめ見守つていようという気持ちからつけられました。

そして、私たちの五十五名の会員数はおそらく同窓会が充足して以来、最も少ない会員数で成人を迎えるのではないかと思います。人数が少ないということは、それだけ一人一人にかかるとは、仕事も負担も多く大変な苦労もあります。しかし、ここが翠嶂会の強い所です。私たちは会員はそれぞれ輝く個性を持っています。全員が主役になることが出来るのです。

私たちは成人の花火を打ち上げようとしています。どこにいても大人にしてくれた片貝町に感謝して会員五十五名、肩を並べて木遣りを歌いたいです。これからの片貝町のためにも、いい祭りを子供達に見せたいです。





### 教育講演会に 寄せて

東京片貝会  
会長 佐藤 祐一

昭和四十二年卒つぐみ会の山口正彦さんを講師として、昨年十月、第二十二回教育講演会が開かれました。私も参加し、深い感銘を受けました。山口さんのお話がすばらしかったのは無論ですが、生徒の皆さんが私語もせず熱心にメモを取りながら、山口さんのお話に食い入るように耳を傾けている姿に非常に感心しました。良い質問もたくさん出ました。とかく今、世の中では生徒たちの集中力の持続が続かず、授業中も先生の話を聞かない、私語が多く授業が成り立たないという思い込みが流布しているようですが、例外もあることを知り、非常に心強く思いました。

母校を励ます会は東京片貝会元会長・佐藤量八氏の提唱により発足したもので、事業として小学校と中学校に図書を贈るとともにこの講演会が始まったわけです。NHKテレビで、毎週日曜日の朝「ようこそ先輩」という番組が放送されています。有名人が母校の小学校を訪ね、

自分の得意分野の授業を行うのです。私はこの番組をよく見るのですが、これを見ながら、心の中で規模こそ劣るかもしれないが、もう二十数年も前からこんなことをやっていますよと誇らしく思うのです。

講師 山口正彦さん



話は変わりますが、小泉首相のお陰で越後長岡藩の『米百俵』が有名になりました。私には長岡出身の高校時代の友人がたくさんいます。アルコールの入った席で彼らが米百俵の自慢話を始めると、私はすかさず二百年も前から、片貝村には朝陽館という学問所があり、近隣の村々から多くの向学心に燃えた若者たちが集まり、そこからは国政にも関与された偉人が輩出した

話をします。教育による人材の育成こそが町を発展させ、ひいてはわが国が世界中から尊敬されるようになり、生き延びるためにも最も大切なことと考えています。どこまでお役に立っているかはわかりませんが、東京片貝会では皆さんのご協力が得られるかぎり、このような活動を続けていきたいと考えています。そろそろ、親子二代で洋々文庫の本を読んだという世代に入っているかもしれません。

### 教育講演会を聴いて

つぐみ会

西澤 博明

今年、二十二回目を迎えた教育講演会を我々、つぐみ会々員山口正彦君にお願いし、十月に開催されました。

小さい頃から現在に至るまでの数々のエピソードを交えての講演でした。その時は何気ないことでも、今、思えば大切な節目の時間、そんな時間を与えてくれた「家庭」「仲間」「学校」「地域」がすばらしいと話してくれました。

今、生活様式も環境も目まぐるしく変化していく中、人や学

校、地域とのかかわりが希薄になってゆく地域の多い中で、中学校同窓会が中心となり、「講演会」「同窓祭」「球技大会」等々のイベントを通し、子供達はもとより、卒業生一同が、縦・横のつながりを持てることは、すばらしいことだと思います。将来、今の在校生が講演会を行うとき「やっぱり片貝は良かった」と言えるような環境を維持していかなければならないと思います。

### 同窓会球技大会

H16・8・16(月)

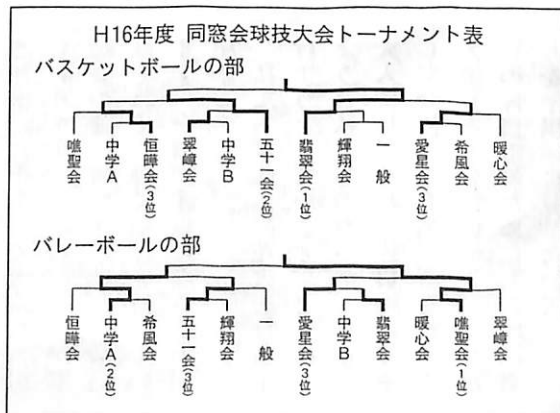
会場 片貝中学校

バスケットボールの部

優勝 翡翠会

バレーボールの部

優勝 唯聖会



### 新入会員 希風会

私たちの同級会名は「希風会」です。この会名には、片貝町に希望の風を吹かせようという私たちの思いがこめられています。

### 編集後記

震災の翌日に予定されていた第十四回同窓祭も無事終了しました。今後も役員一同、同窓会会員の皆様と一緒に片貝中学校同窓会を、震災に負けず今以上に盛り上げていきたいと思います。